

◇学園彙報（昭和五十六年度）

◇望月海淑教授の篤志寄附◇

本学教授望月海淑先生（身延山樋沢坊住職）には、本学園に対して金参百万円の篤志を寄せて、学園の研究体制の充実と発展に資して欲しいと申し出られのに対し。本学教授会は先生の篤志を意義あらしめる為に、前年度新設された「灘上研究奨励基金」と併せ一本化して、「灘上・望月学術奨励基金」として発足させ、今後は仏教文化研究所を中心として大いに基金を活用し、身延山教学の振興を図ることが議せられた。

◇学内研究発表会◇

この研究会は満六年を教え本学先生方の研鑽発表の場となっている。偶々、本年度は宗祖七百遠忌の正当に会し、身延山久遠寺に於て遠忌事業が展開された為に、本学の先生方も遠忌事業の全般に亘り参画協力・奉仕を余儀無くされた為、研究発表も割愛を余儀なくしたが、それでも左記の通り実施した。

◇第四十四回（四月十一日）

一日蓮宗インド仏跡参拝」研修報告

助教授 山田 是明

◇第四十五回（五月二十八日）

本尊論の展開について

講師 桑名 貫正

◇第四十六回（九月二十五日）

言語と思考

教授 大森 孝

◇四十七回（十一月六日）

「空観」の検討―竜樹を中心として―

教授 里見 泰穂

◇第四十八回（五十七年二月十六日）

道元の時間論について

教授 町田 是正

学会活動報告

○日本印度学仏教学会

第三十二回学術大会は、八月二十六日（水）・二十七日（木）の両日、同朋大学（名古屋市中村区）において開催され、本学より左の三氏が研究発表された。

中論の論理について

里見 泰穂

最蓮房あて御書の問題点

中条 暁秀

日蓮聖人の瑞相観

上田 本昌

○日本仏教学会

昭和五十六年度學術大会は、十一月十三日(金)・十四日(土)の両日にわたり、「社会倫理と仏教の機能」を共同研究テーマとして、四天王寺本坊(大阪市天王寺区)において開催され、本学の上田本昌教授が研究発表された。

日蓮聖人における衆生済度と機能

上田本昌

○日蓮宗教学研究発表大会

第三十四回日蓮宗教学研究発表大会は、十一月二十七日(金)・二十八日(土)の両日、日蓮宗務院において開催された。本学からの研究発表者は左の四氏であった。

関西身延妙伝寺について

林 是晋

三観について

若杉見龍

金網集の一考察

中条暁秀

四山四河の一考察

上田本昌

(文責・中条)

○インド仏跡巡拝研修旅行。

本学の山田是明助教・筒井妙清護教諭の二人は、二月十一日より二十六日まで、インド仏跡等の巡拝を行い帰国した。

カルカッタ。パトナ。バイシャリ(釈尊外護者リッチャヴィ族の都)。ブダガヤ(釈迦成道の聖地)。ベナレス。サルナート(釈尊初転法輪の聖地)。クシナガール(涅槃の聖地)。テ

イラウラコット(立正大学発掘調査のカピラ城)。ルンビニ(釈尊誕生の地)。デリー。タジマハール。サンチ。エローラ。

この巡拝研修の成果については、学内研究会(四月十一日)で詳細に報告された。

◇「山梨県一般教育研究・協議会」の設立

昭和五十六年十二月十二日、山梨県下の高等教育機関(大学・短大・専門学校)を主体として「山梨県一般教育研究・協議会」が設立された。本会は「一般教育に関する研究活動の正當な発展を期し、研究活動に関する情報交換並に研究成果の公表併せ一般教育の振興を図ることを目的」(協議会規則二条)としている。本学からの加入会員は左記の通りである。

町田是正(教授・日本中世仏教史・歴史学)

大森 孝(教授・英語学・英文学)

堀 一勇(教授・東洋思想史・外国史)

一富嘉孝(助教・体育学)

山田是明(助教・体育学)

尚、大森・町田両教授は本会の理事に就任す。

◇日蓮聖人第七百遠忌身延山報恩事業

身延山に於ける報恩記念事業は、(一)建設部門、(二)社会教化部門。(三)説誦会・大法要部門の三つに亘り展開し、鴻恩の一分に謝し、以って報恩に擬し奉った。

(一)建設部門：清風寮新築(五十五年十一月完成)、水鳴楼建築

(五十五年十二月完成)、信徒休憩所新築(五十六年三月完成) 新納牌堂新築(五十六年九月完成)、大本堂建立(五十六年十月上棟式・五十七年十月完工予定)。

(二) 社会教化部門：身延山久遠寺が刊行するものに『日蓮聖人遺文辞典』(立正大学日蓮教学研究所編・代表宮崎英修所長)、『身延山史年表』(身延山短期大学仏教文化研究所編・代表町田是正所長)、『身延文庫典籍目録』(身延文庫編・代表林是晋主任)、『日蓮聖人と身延山』(ぎょうせい出版社刊)

(三) 説諭会・大法要部門：前年大法要(五十五年十月十一日～十三日)。御正当前期大法要(四月一日～十日)。中期大法要(五月一日～五月十日)。御正当報恩大法要(十月六日～十五日)

右の身延山報恩事業のうち、特に本学教職員が奉仕協力したものの、進捗しつつある事業は次の通りである。

(1) 『身延山史年表』：本学の先生方により膨大な資料の蒐集・調査・整理が進められ、遠忌大法要御正会・十月六日、整理された原稿の一部(今村良枝浄書に依る)が、町田是正教授によって竹下日康総務に手渡され、総務がこれを御宝前に献納した。年表作成に参画協力された諸先生は―林是幹・上田本昌・望月海淑・大森孝・若杉見竜・山田是明・林是晋・中条晧秀・中里悠光・奥野本洋・桑名眞正・望月海英・今村良枝・町田是正(敬称略)である。

(2) 『日蓮聖人と身延山』：本学からの共同執筆は次の通り。
上田本昌教授「日蓮聖人と身延山」。「文学芸能に現われたる

身延山」。町田是正教授「身延山の歴史」。望月海淑教授「身山案内記」。林是晋講師「身延山の自然と文化財」。となっている。

(3) 『身延文庫典籍目録』：身延山の開闢以来伝来する秘宝の典籍を目録に作成するもので、この目録によって身延文庫に所蔵される典籍の全貌が明らかとなる。本学講師林是晋先生が寸暇を惜しんでの作業でありその刊行が期待される。この典籍目録の原稿も、遠忌大法要の当日、棲神閣に於て、林講師から竹下総務に渡され、宗祖の御尊像宝前に奉安された。

(3) 身延山大法要(前年度・正当念)出座奉仕教職員は左の通り。

- | | | | |
|----|-------|-----------|-----------|
| 教授 | 林是 | 幹(端場坊住職) | 協導師(勤む) |
| 教授 | 長谷川寛慶 | (大善坊住職) | 声明導師(勤む) |
| 教授 | 堀 | 一勇(窪之坊住職) | 脇座・鑿座を勤む |
| 教授 | 町田是正 | (延寿坊住職) | 遠忌委員・木鉦座) |
| 教授 | 望月海淑 | (樋沢坊住職) | 七面山敬慎院(当) |
| 講師 | 林 | 是晋(了円坊住職) | 雅楽・中座(勤む) |
| 講師 | 望月海英 | (花之坊住職) | 雅楽・中座(勤む) |
| 講師 | 中里悠光 | (鏡円坊住職) | 雅楽・中座(勤む) |
| 講師 | 奥野本洋 | (妙石坊住職) | 雅楽・中座(勤む) |
| 講師 | 長谷川寛勝 | (大善坊裡) | 中座(勤む) |

(文責・町田)

◇同窓会本部役員会の開催

日時：昭和五十六年十一月二十七日。場所：身延山短期大学
 仏教文化研究所。出席：灘上恵教・松井大周・岩田日成・小崎
 竜雄・池上要輝・長谷川寛慶・児島鍊誠・町田是正の各師。

審議決議事項：①学園図書館建設について役員会の連署を以
 って、久遠寺当局に対し「要望書」を上申すること（連署のう
 え提出す）。②本部幹事の深沢義雅師（和身会世話人）の退任
 を承認し、永年の奉仕に対して同窓会本部より感謝状、併せ和
 身会から慰労金一封を贈ることとした。③昭和五十六年宗会議
 員選挙で当選した同窓諸師（矢谷恵宏・中村正彦・沖原成行・
 関谷泰敏・森恵遠・伊藤如頭。）と、本学に教鞭を執る望月海
 淑師に対して祝電をおくる事とした。④図書館の建設に関して
 学園当局に於ても早急に青写真（見積概要）を作成して本山当
 局と接渉して欲しい。⑤本部会計監事として下里是忠師（身延
 山本行坊住職）を選任す。⑥和身会世話人深沢義雅師退任、そ
 の後任に小崎竜雄師（神奈川県本内寺住職）を選任したいと申
 し合せた。また和身会の世話人の名称を「会長」と改め、深沢
 義雅師を顧問とすることに決した。

（文責・町田）

◇昭和五十六年度短大卒業論文論題

（ ）内は指導教員、敬称略

番号	論 題	学生氏名
1	宗祖の「法難観」について（秋葉真敬）	安藤 顕雄
2	日像上人と帝都開教について（林 是晋）	石田 顕正
3	日蓮聖人の報恩観（桑名貞正）	石井 潔
4	法華経広宣流布について（望月海英）	大原 康昭
5	法華経中の誓願について（望月海淑）	片寄 智雄
6	戦国時代の日蓮教団の歴史―特に天文法難について― （林 是晋）	香味 成樹
7	本宗における祈禱本尊鬼子母神について一考察 （奥野本洋）	金原 広秀
8	日蓮聖人身延九箇年の一考察（上田本昌）	米 虫 是 恭
9	宗祖の「上行自覚」について（中条鶏秀）	小代 海 敏
10	優陀那日即上人について（林 是幹）	瀬 尾 雅 範
11	宗祖の法華経観（若杉見龍）	竹 岡 智 大
12	宗祖の謗法観（桑名貞正）	豊 田 通 良
13	靈友会教団とその分派（上田本昌）	丹 羽 三 典
14	日蓮聖人の佐渡の御生活について（町田是正）	望 月 是 祥
15	唱題論と藤井日達師の思想（里見泰穂）	百 瀬 三 津 明
16	二乗作仏（奥野本洋）	山 口 稜

17 現代における「立正安国論」の意義について

(中条秀秀) 渡辺浩紀

18 稱荷信仰について―特に最上稱荷について―

(長谷川寛慶) 獅子原量則

19 弘教の祖日持上人についての一考察(堀一勇)

細川泰源

20 鎌倉時代における日蓮聖人の思想的展開―立正安国論を中心として―(長谷川寛勝)

山口清治郎
(文責・奥野)

◇図書寄贈者紹介(五十六年度)

若杉見竜―国訳一切経一九冊・他四七冊

灘上恵教―日蓮聖上の歩まれた道

望月海淑―法華経における信の研究序説(自著)・他二冊

松下日孝―運命・信仰・迷信・供養・餓魂の話

小野文珠―日蓮宗池上法類神楽坂法縁

深沢義雅―観心本尊抄通解・他五冊

中条暁秀―日本仏教史講話第一巻・他一冊

新川日見―小西法縁系譜

北沢光昭―急急如律令録・他十二冊

身延山久遠寺―久遠寺蔵・重文「本朝文粹」上下(複製本)

他一冊

本54号執筆者紹介

竹下日康(巻頭記念染筆)身延山法主・本学園学長

若杉見竜 本学教授(天台学)

町田是正 本学教授(中世日本仏教思想史)

望月海淑 本学教授(仏教学・梵文)

上田本昌 本学教授(日蓮教学・祖書学)

中条暁秀 本学講師(日蓮教学・祖書学)

大森孝 本学教授(英語学)

林是幹 本学教授(日蓮宗史)

北沢光昭 本学会々員(日蓮教学)

奥野本洋 本学講師(天台学)

林是晋 本学講師(日本仏教史・日蓮宗史)

今村良枝 本学園事務局主事

熊王秀臣(巻頭涅槃図写真撮影)身延山久遠寺勤務

望月日滋法主猊下御遷化

身延山八十八世法主・身延山短期大学々長・太文院望月日滋
猊下には、昭和五十七年二月一日午後一時十五分御遷化された。

身延山門前町に生まれ十六歳で旅立たれ、昭和四十九年六月
身延山八十八世の猊座に晋董、地元民の衆望を負うて身延に帰
られた法主猊下でした。ときは宗門挙げて宗祖七百遠忌報恩事

業が展開されつつあった。猥下にはご晋山以来、幾多の身延山の記念事業の推進に取り組み、大本堂の建設をはじめ、宝蔵・水鳴楼・信徒休憩所・新納牌堂・学生寮など境内諸堂宇の建設整備、また社会教化事業、報恩大法要の奉行など、総務竹下日康猥下の強力な補佐の下に着々と諸事業を円成されていった。昭和五十六年宗祖七百遠忌正当大法要には、四大不調にも拘わらず樓神閣祖師堂に大導師法主の一臂を執られた。しかるに二月一日、大本堂の落慶を目前にしての御遷化であります。悲痛寂しさ極みなし。謹んで学園教職員一同増円妙道をお祈り申し上げます。

竹下日康猥下、身延山第八十九世法主

猥座に晋董

昭和五十七年二月六日身延山久遠寺祖山会は、万場一致を以って現久遠寺総務・竹下日康猥下（神奈川県本山妙純寺貫首）を第八十九世法主（守塔沙門）に推挙いたしました。竹下猥下には約半世紀にわたり久遠寺枢要の場に在り、特に庶務部長・総務の要職を永きに勤められ、身延山発展の原動力となり、久遠寺堂宇整備と莊嚴輪奐の美を築かれました。

宗祖七百遠忌記念主事業であり掉尾を飾る大本堂の完成こそまたれる所であります。新法主猥下には法体亦々健かに、為宗護山に御尽力あらんことを、併せ身延山教学発展の為に一臂の御助力を賜わらんことをお願い申し上げます。御入山心から祝

意を表します。

◇文化講演会の開催

日時：昭和五十七年二月二十五日。場所：身延山短期大学。
講師：立正大学教授・文学博士・中尾堯先生。演題：宗祖御遺文との出会い（中山法華経寺聖教殿の御真蹟をめぐって）
本学では毎年、斯界の権威者を招聘して公開文化講演会を開き、学の内外の有識者と共々に素養を深めているが、本年は山梨県一部布教師会諸師多数の来聴を得て盛會裡に終始し、宗祖御伝記・宗門史発掘の原点について理解を深めることができた。